

今度こそきっと！ 実り多い夏休みのために 頭と心とに糧を

紹介と助言

1. 高度の勉強へ、科学技術の修練へ向かい始めた学年の人々には、本をどう選び、どう使いこなすか、さらに、どう生きるか、の基礎の心構えを、また、かなり専門の分野に進んだ学年の人々には、直ちに血肉となるような貴重な助言指導を、5人の先生方からいただくことができました。

長い休暇を迎えて、よくかみしめ、ご熱意とご期待に答えてもらいたいものです。

2. 本校生の読書や図書館利用の実態には、まだまだ向上の余地があることを、諸統計やグラフは正直に語っているようです。

4学科間の対比や、学年による推移についても、読み取り、考えさせられる事が多いことでしょう。能力には恵まれている本校生の積極性を待望します。

3. 「求めよ、さらば与えられん」とは、誰でも知る金言ですが、この「求め」とは、懐手（ふところ）をしたおねだりを意味しているのではないはず。心の底から強く願い求めている、それが自然と真剣な態度と行動に現れることではないでしょうか。

当館の開館時刻・時間や貸出冊数・期間、その他設備など、もろもろのサービスについて、各種の機会に学生諸君の意見を聞いて改善してゆくつもりですし、今後も各クラスの図書委員を通じていろいろ申し出られることを歓迎します。

ただ、それ等の要望が実現される近道は、現在の状態や条件の下では飽和に達した、と誰にも認められるほどに、諸君の利用の度が高まることであろうと考えます。

早くそのような段階が来て、諸君の強く願い「求め」るものを「与え」ることができるよう、関係者一同で期待しているのです。

4. さて、これからの50日間というものを、君はどう過ごそうとしていますか。

中学の同級生に比べて、目先の受験用勉強にわざわざいされる必要のない点でうんと幸福な君は、頭と心とにたっぷり栄養を吸収するのに絶好な期間であることを、ゆめゆめ忘れ給うな。

終業式の日には、書庫に、代本板によるすき間が目立つほどになってくれたら、私たちにとっては、この上ない喜びなのですが。
(館長 池田 豊)

内村鑑三と塚本虎二

英語科 渡辺 洋太郎

内村鑑三（1861 - 1930）は明治10年9月、16歳で札幌農学校第2期生18名の一人として入学したが、あの“Boys be ambitious.”の句を残したクラーク博士は、すでに4月帰米していた。しかしその薫陶を受けた1期生16名が新入生に改信を強要し、クラークの作成した「イエスを信ずる者の誓約」に署名させた。最後まで抵抗した内村も、強要に屈してからは、素直にキリスト教を学び、やおよろずの神々よりも一神教の合理性に解放感を覚え、1年と経たぬうちに熱心な信者となった。新渡戸稲造ら同級生だけで日曜礼拝を厳格に守り、他の6日間は学業に没頭し、首席で卒業後は、前途有望な生物学者として官職に就いた。

しかし靈魂の平安を得ていない内村は、明治17年、23歳で渡米し、天職を求めていたが、伝道者たるべくアマースト大学に学び、シーラー総長より十字架による罪の赦しの福音を示されて、聖書の研究に熱中した。日本古来の精神的風土に根ざす高貴なキリスト教の定着を夢見て、4年後に帰国したが、明治24年、一高教員として教育勅語に敬礼しなかった、いわゆる不敬事件の故に教壇を追われた。囚賊と罵られて国内に安住の地なく、大阪・熊本・京都と流浪の数年を貧窮の中で過ごした。この苦境の中から生まれたのが、彼の思想家としての地位を確立した一連の著作である「基督信徒の慰め」「求安録」「余はいかにして基督信徒となりしか」「後世への最大遺物」等である。

明治30年からは日刊新聞「万朝報」、翌年創刊した「東京独立雑誌」で警世の健筆を揮い、聖書に基く非戦論で日露開戦に反対したことは、特に有名である。明治33年に個人雑誌「聖書之研究」を創刊し、昭和5年3月の死（69歳）に至るまでの357号を通して、キリスト教信仰の研究と伝道に専念した。毎日曜には市中の講堂で聖書講義の集会をもち、大聴衆を震えあがらせるほどの感銘的な熱弁をふるったという。

彼の著作のどれを読んでも、その迫力は人を圧倒せずにおかない。先に挙げた4作品はいずれも若き内村を代表する古典的なものである。そのうち「余はいかにして…」は、アメリカでの出版を意図して“*How I became a Christian*”の題の英文で書かれたが、愛するアメリカへの苦言のために売れず、やがて出たドイツ語・フランス語・北欧語等の翻訳を通じて、世

界の注目を集めたのである。これには札幌農学校およびアメリカでの回心などの事情が詳しく語られ、日本的キリスト教の礎石として永く残る作品である。

ここでは彼の無教会主義に関して、処女作「基督信徒の慰め」の一節を抜粋する。

「余の神学上の思想についても、余の伝道上の方針についても、余の教育上の主義についても、余は余の真理と信ずるところを固守するがために、あるいは有名博識なる神学者に遠ざけられ、あるいはキリスト教会内において非常の人望を有する高德者より無神論者として排斥せられ、ついには教会全体より、危険なる異端者、聖書をないがしろにする不敬人、…過酷の批評をこうむるに至れり。…余は無教会となりたり、人の手にて造られし教会は、余は今やこれを有するなし……さらば余は神を拝し神に近づくための礼拝堂を有せざるか。かの西山に登り、広原沃野を眼下に望み、俗界の上に立つこと千仞、ひとり無限と交通する時、軟風、背後の松に賛歌を弾じ、頭上の鷲鷹両翼を伸ばして天上の祝福を垂るるあり。…ああ神よ、余は教会を去りてもなんじを去るあたわざるなり。」

内村門下には、有島武郎・志賀直哉・小山内薫・正宗白鳥らの作家もいたが、いずれも背教、ないし離反している。むしろ戦後相継いで東大総長になった南原繁・矢内原忠雄の講演によって、内村の影響の大きさが注目されたのである。多数の内村門下の中で無教会主義を徹底的に貫いたのは、矢内原の先輩の塚本虎二（1885 - 1973）である。

塚本は明治37年18歳で福岡から上京し、一高に入学した。そこではスイスの思想家ヒルティに傾倒し、帝大法科ではダンテに没入した。内村との出会いは一高時代で、内村の「基督教問答」中の「今の青年輩が少しく近世科学の片端を嚙りたればとて聖書の記事に対して迷信呼ばわりの声を発するのは片腹痛い」なる言に触発され、「聖書之研究」の購読者となり、大学3年の時から日曜聖書講義を聴くに至ったという。

大学を出て農商務省に9年間勤めた後、聖書研究に生涯を捧げる決心を固め、家にこもった。しかしドイツの大学へ留学が決まり、その出発直前の大正12年、関東大震災により家が倒れ、最愛の妻を失った。その痛苦の中で、神は人間の思いとは無関係に、常に義であり愛であることを知ったという。この回心を転機に、彼は留学を断念して内村の助手となり、日曜講演ではその前座を務め、「聖書之研究」にもほぼ毎月寄稿し、伝道者の生活に入った。

しかし激しい無教会主義の主張のためか、彼は内村から独立を迫られ、昭和4年10月から独自の日曜集

会をもち、また翌年1月からは個人雑誌「聖書知識」を発刊した。これは昭和38年6月まで397号を数え、戦後まで変わらず純福音信仰による無教会主義を説き続けた。戦時中も軍部の弾圧を巧みにかわしながら発行を続けた。この雑誌は「聖書之研究」の廃刊後は、特に結核療養所等に多くの読者を得て、彼らの生きた信仰を語る来信を集録した「新生のおとずれ」という書物も塚本の手で発行された。

塚本は特に聖書学の造詣が深く、新旧約聖書の原語であるギリシア語・ヘブライ語によく通じ、すでに昭和19年に新約聖書の口語訳を完成し、戦後も死の直前までその改訂を繰り返した。岩波文庫の「福音書」は彼の口語訳であり、「福音書異同一覧」という学問的労作もある。

戦前は信州浅間山麓を愛したが、昭和22年から37年まで夏の間はいわき市平か四倉で過ごし、日曜集会を開くのを常とした。昭和48年の死(88歳)に至る10年間は一切の活動を停止しての闘病生活であった。塚本門下には秀村欣二・前田護郎・山下次郎・関根正雄等の大学教授や、最高裁長官藤林益三などの俊秀がいるが、塚本は無名の療養所の信者を特に愛していた。

著作には「聖書の読み方」「放蕩息子とその父」「ヘブル書講義」「主の祈りの研究」「死に勝つ」「結婚と信仰」等があるが、現在刊行中の「塚本虎二著作集」(12巻)は、「聖書知識」に連載された「イエス伝講義」と「ロマ書講義」をまとめたもので、高い学問水準に基く塚本の深い聖書理解と信仰が語られている。

内村は「無教会主義」を語ったが、それを第一義的なこととは考えないと言った。しかし塚本は、「この男は無教会主義をどなりながら死んだ」と墓碑に刻んでもらいたいと言った。無教会主義はキリスト教信仰の根本であり、内村の信仰、言動すべてがそれを実証していると言う。塚本が内村の「聖書之研究」昭和3年9月号に寄稿した「無教会主義とは何ぞや」の一節を引用して本稿の結びとする。

「無教会主義とは無教會的基督教、教会なし、教会によらざる基督教の意である。教会の厄介にならぬ、教会をもって救の必要条件と見ざる…基督教である。勿論「教会」とは教会の建物を目指すのではない。教会なる制度・組織である。…例えば洗礼・聖餐・礼拝等の凡ての教會的儀式典儀、あるいは聖職、あるいはいわゆる伝道事業等、すべてこれらのものをもって基督教の必要条件、また主要なる構成要素と見ない基督教の意である。即ち基督教において無くてもならぬ唯一のものは十字架の信仰であって、それ以外のすべてのもの

の、今日の教会が重要視せる凡てのものをもって、どうでもよいものと視る基督教である。一言にして言えば、教会によらず、直接キリストのみによって神を信じ、これによって完全なる救に入り得ると信ずる基督教である。」

最近の読書から

機械工学科 佐藤 新太郎

私の学生時代には統制のため本が少なかった。読みたい本が手に入ると、心を弾ませて貧るように読んだことを覚えている。そんなことから、溢れるばかりの本がある書店に行ける今の若い人をうらやましいときどき思う。しかし、本屋に立寄ってみても、私が若いとき読んだ本があまりおいていないのはどうしたことであろうか。わずかに全集物や文庫本などに見られるだけである。そこにあるのは、まさに流行とマスコミに乗っておびただしく量産された売らんかなの出版物の山である。営利むき出しの誇大広告にも似たカバーをつけて並べたてである本をみると、この中から若い人達が心の糧となり琴線に触れるような本を探し出すのは大変なことだとも思う。

最近読んだ本に「学生生活実態調査」というのがあって、そのなかに現代の学生が「よく読む雑誌」として、その上位10位までにまんが雑誌が4点も占め、さらに上位40位までのなかに文芸誌などが一冊も含まれず、週刊誌や話題本位の読物がほとんどであることが書かれてあった。このような傾向は学生に限らず、一般社会人にもみられようである。新刊書についても、ハウツー物、安易な解説書やマスコミによるベストセラー物が店頭に幅をきかしているのをみるにつけ、現代の読書傾向がうかがわれてならない。

書店のまんが本売場で立読みし、教室までまんがを持込むような学生が、誤字と独断、偏見に満ちた文章で人間性をいくら唱えてみたところで、所詮は浅薄な自分の人間性を露呈するだけである。

私はここでまんが評論や高踏的な読書論をする積りは毛頭ない。ただ、屁理屈をつけて低俗な読物に安易に妥協し、自らをあざむき、逃避することが、かけがえのない青春に大きな悔恨を残すことを恐れるだけである。高専は無気力な老人ホームでなく、若い気力に満ちた学校であると私は信じた。 閑話休題。

最近読んだ新刊書のなかで自然科学関係のものを少し選んで紹介する。

「摩擦の話」曾田範宗著 岩波新書

摩擦現象はどこにでも存在し、あまりにも日常馴れているため、空気や重力のようにその存在に気をとめないで過ごしていることが多い。私などは毎日建てつけの悪い雨戸を繰るときに摩擦を意識する程度である。世の中に摩擦がなければなどとよく話にできることがあるが、機械関係では摩擦との係りあい極めて大きい。しかし、これまで摩擦や潤滑について手頃にまとまった本がなかったように思う。

斯界の権威である曾田先生によって解説された本書は、機械を学ぶものだけに限らず、広く技術系の学生にとっても格好の本である。先人が苦勞して築いた摩擦法則に始まり、日常身の摩擦現象をとらえ、その本質的な機構が分り易く説明されている。さらに人類がいかに摩擦を克服あるいは利用したかということについて興味深く述べられてある。

「流れの科学」木村竜治著 東海大学出版会

著者は東京大学海洋研究所において、気象学とくに地球上の流れ現象を研究している30才台の新進気説の若い研究者である。本書は高校生との対話形式で流れの世界を説明し、次第に流れ現象に対する理解を深めていくというものであるが、登場する高校生は著者の若き日の姿でもあろうか。

大気や海洋などでみられる大きな流れも日常われわれが身近で体験している流れ現象と本質的に同じであるということをうまく説明しており、読者を流れの渦に引き込み、難しいといわれる流体力学の分野を一層身近に感じさせてくれる。

「科学の方法」中谷宇吉郎著 岩波新書

本書は新刊でなく、私が20年ほど前に読んだものが行方不明になり、最近再び買い求めて読んでみたものであるが、技術者を志向する若い人には是非一読してもらいたいと思って敢えて紹介する。

本書は、いわゆる体系的な科学方法論といった内容のものでなく、自然科学の本質がどういふものであるか、科学によってどんなところまで分かるのか、人間と科学はどんな関係にあるのかなどについて洗練された筆で書かれている。高専生にとっても自然科学に対する正しい認識が得られるのではないかと考える。座右に加えたい本である。

電気材料への道標

電気工学科 岩間一郎

電気技術者の大別の仕方に、材料屋と回路屋とに、分類することがある。小生は、その材料屋の実験屋であり、また、そのことに自負している。従って、回路や計測法等は、飽くまでも、材料の構成や特性を調べ、検討するための手段・方法であり、電子顕微鏡・X線装置や電算機と同様、材料を見極めるための、道具の一つと考えている。裏返せば、そんな風に考えている連中が、材料屋なのかもしれない。

電気技術の分野で、この材料学に精通するためには、先づ第一に、非常に多くの、これら電気・通信・電子材料の性質を知って、その取扱いに慣れることと、第二に、一層深奥な性能を究めるためと、さらに、これら材料の高度な応用面を、開拓できる力を蓄えるために、物性論を理解することである。

物性論とは、物質の物理的性質を論ずる学問である。物質を構成する原子や電子に着目して、微視的な立場から、材料の性質、つまり、電氣的・磁氣的な性質を究明することを目的としている。従って、物性論は、物理学と工学との境界領域に属するもので、最近、特に、重要視されているものであり、同時に、電気・通信・電子を専攻しようとする学生は勿論のこと、他の工学を専攻する学生にも、必要不可欠な、必須科目である。然し、この学問の基礎は、量子力学的な解釈によるところが多いこともあって、難解なために、重要な学科目でありながら、この領域の学問を、毛嫌いする者がいる。一方、美事な解釈を一度身につけると、もっと深く勉強したいと、思う学生の多いことも事実である。

以上のことから、電気材料を学ぼうとする学生に、より一層、力をつけるための“電気材料への道標”と題して、順を追って、図書案内を試みよう。

◎ 技術用語の説明と概説の図書として、

- (1) 大岡崇著：図説電気工学大事典(2)電子工学編
- (2) 和田重鶴著：図説電気工学大事典(8)電気材料編
（電気書院）
- (3) 井上敏他共編：岩波理化学辞典、（岩波書店）

◎ 数式少なく、初心者向き物性論の図書として、

- (4) 小山恒夫他共著：電気・電子材料の物性

（学献社）

- (5) 宮原著：物性論序説、（白水社）

- (6) 崎川著：物性論（12巻）、共立出版（株）

- ◎ 電気技術者向き物性論の図書として、
- (7) 下村武他共著：電子物性の基礎とその応用
 ㈸コロナ社
- (8) 林友直他共訳：電子工学の基礎、㈸コロナ社
- (9) 電気通信学会編：エレクトロニクスのための物性論
- (10) 和田正信訳：固体電子工学（上・下巻）
 ㈸近代科学社
- (11) 鳩山道夫他共著：電気物理学、共立出版㈸
- (12) 吉田重知著：固体物性論概説（講座）
 ㈸近代科学社

- ◎ 物性論の著明な外国図書として、
- (13) A.T.Dekker：Solid State Physics .
 Prentice - Hall Co. Ltd.
- (14) G.Kittel：Introduction to Solid State
 Physics . John Wiley Co. Ltd.

- ◎ 物性論の電気材料工学への応用図書として、
- (15) 山中俊一共著：近代電気材料工学（講座）
 ㈸電気書院
- (16) 田中哲郎他共著：電気材料学、㈸誠文堂新光社
- (17) 電子通信学会編：電子通信材料、㈸コロナ社
- (18) 川村肇著：半導体の物理、㈸植書店
- (19) 青木昌治著：電子物性工学、電通学会編
 ㈸コロナ社
- (20) 植村泰忠他共著：半導体の理論と応用、㈸裳華房
- ◎ 平易な電気材料工学の図書として、
- (21) 古幡情司著：電気・電子材料、㈸明現社
- (22) 三田洋二他共著：新しい電気材料、共立出版㈸
- (23) 鳳誠三郎著：新制電気材料、㈸オーム社
- (24) 上田実他共著：電気材料（講座・17巻）
 ㈸朝倉書店
- (25) 齊藤幸男著：電気材料学（共立全書）、
 共立出版㈸

- ◎ その他参考図書として、
- (26) 大原儀作他共著：電気材料および部品（講座・9巻）
 ㈸朝倉書店
- (27) 喜田村善一著：電子通信部品、㈸コロナ社

入門書紹介

工業化学科 井上和人

1. はじめに

表題の原稿依頼をうけたが、意にそぐわず雑文になってしまった。しかし、これが少しでも学生諸君の参考になればと願っている。

6月15日に一年生のあるクラス（40人）で化学の参考書の所有冊数を調べたところ、次のような結果を得た。

0冊—25名； 1冊—14名； 2冊—1名。

未所有者が予想外に多いのにおどろき、書物の必要性をそのクラスで力説した次第である。本稿でも、参考書、ひろく書物が学習に欠かせない道具であることを強調し、本の購入の仕方についてのあれこれを主に述べてみたい。

2. 学ぶ*に如かざるなり

子曰わく、「わたしは前に一日じゅう食事もせず、一晩じゅう寝もしないで考えたことがあるが、無駄であった。学ぶ*ことには及ばないね（不如学也）」

*学ぶ—書を読み、師に聞くこと。

この論語は学習の方法を教えていると思う。すなわち、学習は自らの頭脳を主体的に使う作業であると考えられるが、同時に先人のこれまでの知識や技術を吸収し自分のものにすることが大切である。具体的には、教室での疑問点をそのままにしておかないで先生に質問することや古今東西の書物を通じて著者の先生から間接的な指導を受けることであろう。それでは次に、学ぶために必要な書物の求め方にふれてみよう。

3. 本の買い方あれこれ

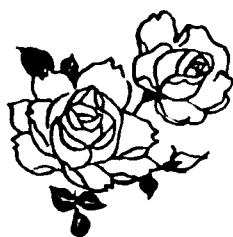
1) 書店の利用

街の本屋さん足しげく通って、自分にとって未解決の事項を良く書いてある本を探してみる。諸君の波長にあった本があると思う。2、3冊の本を毎月購入すると1年間には本棚一段分の書物が準備されることになる。また、機会をとらえて、日本橋あるいは仙台の丸善、神田の三省堂、東京堂、書泉などの大書店に行くと多くの書物に接することができる。

2) 図書目録の利用

図書目録には次のようなものがある。

- a) 各出版社が出している総合図書目録（無料）



本を買った時に入っている「はがき」を出すと送ってくれるものがこれであり、その出版社で現在刊行している図書、ならびに近く刊行する図書が掲載されている。これは官製はがきで申し込んでも無料で送ってもらえる。

b) 日本理学書総目録 (400 円)

c) 化学工業書目録 (200 円)

この目録に関連するものとして、電気・電子工学書目録、機械工学書目録、土木工学書目録、建築図書目録、情報・経営工学書目録が用意されている。

d) リプリント総合カタログ (400 円)

日本国内で出版されているリプリント版 2,014 点が収録されている。リプリント版は原書定価の $\frac{1}{2}$ ~ $\frac{1}{3}$ で入手できるので、大いに利用していただきたい。

() 内に一応定価を付しておいたが、これらの目録も無料でもらえるのが普通である。さて、以上のような目録を調べて必要な本を近くの本屋さんに注文すれば、2~3 週間で目的の本が到着する。なお、注文は電話でもでき、出版社、書名、ならびに著者の順に言うといい。リプリント版にない洋書の注文は丸善あたりでするとよいであろう。なお、最近、丸善郡山営業所が開設されたので便利になった。筆者も学部の学生の頃、Sidwick の "Chemical Elements and their Compounds" (Oxford) や Gattermann の "Die Praxis des organischen Chemikers" (Walter de Gruyter) をこのようにして入手した。

船便で届くためか、国内に在庫がある場合をのぞき、早くとも 3 か月かかると思っていて間違いない。

3) 古書店の利用

古本屋と言えば、神田神保町のものが有名である。理工学書をあつかっている店に、東陽堂、玉英堂、四方堂、明倫館などがある。筆者は古本屋の利点は二つあると思う。一つは、文字通りの古本だが現在新本として入手不能のものが購入できることである。宝探しのようなもので必ずしも目的のものがあるとは限らないが、筆者は "Collected Papers of W. H.

Carothers" (ナイロンやブチルゴムの発明者としても著名なカローザスの論文集) など貴重な本をこれまでに入手することができた。

もう一つの利点は、古書店と言っても新本(同様)がならんでおり、定価の 1.2 割安で売られていることだ。これは、五千円以上の高額の本物の購入に経済的メリットがある。学生の頃の筆者は出版間もなかった "化学便覧(基礎編)" をこのようにして購入した。つけ加えるが、この方法はあくまで新刊の本物をしかも安く入手しようという考えである。

4. 入門書

それぞれの御専門の先生が本校にはおられ大変差し出がましくなるが、数種の入門書をあげて、これから進んで勉強する工業化学科の諸君の参考に供したい。

- 1) フィーザー, "有機化学(上,中,下)", (丸善),
- 2) ロバート, "有機化学(上,下)", (東京化学同人),
- 3) クラム, "有機化学(I,II)", (廣川書店),
- 4) ムーア, "新物理化学(上,F)", (東京化学同人),
- 5) バロー, "物理化学(上,下)", (東京化学同人),
- 6) Glasstone, "Elements of Physical Chemistry", (丸善リプリント版),
- 7) フローリー, "高分子化学(上,下)", (丸善),
- 8) 井本・藤代, "高分子化学教程", (朝倉),

「本との出会い」

土木工学科 高橋 省次

中学生の頃である。「月落ち鳥啼いて霜天に満つ」という漢詩を読んでいたら祖母が大変なつかしがり、若い頃の話しを聞かせてくれた思い出があるが、大分年令の差のある祖母と私とが長い時間をへだてて同じ詩を習うことが出来たのも漢字や本のお陰である。本は人類が得た知識を将来に向かって保存してくれる。後から続く人は先人の築き上げたレベルから更に上に向かって築き上げてゆく、そうして何百年いな何千年の間人類は知識を積み上げて来た。その結果今日の文明が出来上ったのである。本とは有難いものであると思う。

私の生れた町には可成り立派な図書館があるが、中学生の頃はそこで読んだりまた借りてきて読んだものである。帯出簿を作ってもらい家に本を持ち帰る道中は楽しかったが、何を讀んだかについては古いことではっきりおぼえていない。伊藤佐千夫の「野菊の墓」や田山花袋の「田舎教師」それから宮本武蔵の「五輪の書」もあったように思う。

私達の若い頃は戦争中であって今とは大変に情勢が違っていた。物資は次第に不足して行き本も仲々手に入らないものの一つであった。新本と云う訳にばかり

行かないので、専門の教育を受けるようになってからは、学校の休みには神田の古本屋を廻って目ぼしい本をさがしたものである。その頃土木の参考書にはアルスの上木工学全集があった。平山復次郎さんの土木施工法や本間さんの「水理学」はこの全集の一部である。今でも思い出すが物部さんの「水理学」は当時名著といわれたものであったが神田の古本屋ではついに見つけることが出来ず、戦後になって再版されたものをようやく手に入れたが今でも私の本箱に納まっている。その頃コンクリート工学では吉田徳次郎先生のコンクリート設計法が有名であったがこれは早々と甲府で新本を買入れたが、厚くて重くて大変に立派な本であり本箱に飾って満足感を味わったことを記憶している。戦況がきびしくなり本は増々手に入らなくなったが、小林紫朗さんの隧道工学を広島の本屋で見付けたのは昭和19年の夏の頃であった。この本はトンネル工学の名著といわれているが海軍設営隊では大変に役に立った。しかし今は失ってない。

戦争が終り復員してからは誰れもが活字に飢えていたせい私もやたらと本に飛び付いたものである。その頃一番人気のあったものに「リーダーズダイジェスト」があるが、友達から借りて読んだりした。舶来の知識が珍しかったせいかも知れない。戦後間もない頃神田の古本屋でストラスナーの「弾性構橋」を見付けたときはびっくりするやらうれしいやら早速買入れたがそれはやがて信濃川水力発電第3期工事の真人沢水路橋の設計に大いに役立った。

「コンクリートマニュアル」の原本を丸善を通して取りよせたのは昭和26年頃だったが、今は近藤先生の訳本があり読み易くなっている。デルツァギの「土質力学」を買入れたのは調べてみたら昭和30年7月1日と記されていた。戦後もようやく終りに近づき紙質も良くなって今の本と余り違わない。今は長岡大学の教授をして居られる池田俊雄さんが国鉄に居られたころ、この本のすみからすみまでアンダーラインを引かれ読まれているのを拝見して頭が下る思いをしたことがある。この本は困った時に読み直すと何かを教えてください。名著と云うべきかも知れない。それから20年もたっているのだが本は大変に手に入り易くなったし種類も圧倒的に多くなったが余り感激した記憶がないのは豊かになりすぎたせいかも知れない。

この4月本校に着任したら扇先生が集められた本をそのまま残して行ってくれたので技術の参考書には事欠かない。それでもまた私は私なりに新しい本を追いかけて可成りの本を注文した。

私のつたない経験からして若い学生諸君に少し感想

を述べてみたい。就職してしまうと仲々本を読む機会がなくなるので学生時代には、無理をしても巾広く本を読んで頂きたいと思う。人間として何が一番大切なのかと云うことに関して、小説も哲学書も歴史書も良い参考書である。読書の中で対面する様々のケースから自分なりに何か一つの考え方を引出すことが出来るに違いない。専門の本ばかりでなくあらゆる部門の本を巾広く読んでもらいたいと思う。

土木学会誌の特集として昭和51年の10月号に誌上図書館がある。その外Vol.54-1からVol.60-10までの間に土木に関する各部門の図書について紹介されている。一読を進めたい。

最近読んだ本の中から面白いと思ったものを二、三紹介する。

上田誠也著「新しい地球観」(岩波新書)この本は大陸移動説に始まりニューグローバルテクトニクスについて記述されていて大変に面白い。また岩波新書には、井尻正二・湊正雄著の「地球の歴史」、同じ著者の「日本列島」それから見塚爽平著の「日本の地形」があり何れも一読に値するものと思う。

吉村昭著「高熱隧道」この本は小説であるが戦時中、実際にあった黒部川第三発電所の建設に際して、C100度を越す地熱トンネルを掘った男達の物語である。特にナダレの件はショックであった。土木の参考にもなり大変面白い。

中西利雄著「水彩画の技法」この本は戦時中一度出版されたものを昭和30年に再版されその後も出版を重ねている本である。中西利雄が昭和17年に稿を起したものが今に至っても少しも古くさくなっていない。少し内容を引用してみるが、風景画の章で自然の持つ美しさと厳しさの中には「自然には生命があり、驚くべき美しさが満ちており、その新鮮さは確かにその時々において一つの驚きである。この感動を画かなければならない。この自然の心を、そのみずみずしさを、生き生きとした感動を画面に捉えなければならない。また自然の示す深い安定感と静けさの中では、「静かな風景、静まり返った自然といってもそれは死んでいる風景とは違う。

脈々とした生命感が内に満ち満ちている。悠久の生命を湛えた自然の息吹きを、ハッキリと聴くことが出来る風景である。大古から伝えられた静寂さを持ち続けているような、深い奥行きと安定感と静けさにシーンと静まり返った風景の持つ美しさである。この静けさを風景画の画面にも持ちたいと私は思う。……………それらの画面は実に静かである。そして深い愛情のこもった優しさに満ち、限りなく美しく、しかも底に一

脈の厳しさを湛え、自然の示す不思議な静けさ、深々とした安定感、拡がり、荘重さを確然と捉えている。」といった具合でこのあとも続くが、何時までも光りを失わない本だと云えるのではなからうか。現在から将

来にかけて、水絵の参考書として不動のものであるがこれは著者が実に、真実を語り誠実をもって書いたからであると私も信じている。

2年生が連休中に読んだ本

4月29・30日及び、5月3・4・5・6日の豊富で自由な時日をどう過ごしたか、下記9項目から1人4つ以内、選ばせた結果が次の表1である。

更にこの38人・24%の読書人(?)の延べ44冊の書名を学科別に示してみたのが表2である。

(表1)

| 入 | 勉強 | 研究 | 運動 | 休養 | 読書 | ラジオ・テレビ見 | 旅行 | 趣味 | その他 |
|-------|----|----|----|-----|----|----------|----|----|-----|
| M 40 | 26 | ・ | 15 | 31 | 7 | 19 | 5 | 6 | 9 |
| E 40 | 13 | 1 | 16 | 30 | 10 | 30 | 10 | 14 | 4 |
| C 37 | 9 | ・ | 21 | 28 | 7 | 26 | 5 | 5 | 5 |
| 土 40 | 32 | ・ | 19 | 30 | 14 | 25 | 5 | 7 | 6 |
| 計 157 | 80 | 1 | 71 | 119 | 38 | 100 | 25 | 32 | 24 |
| % 100 | 51 | | 45 | 76 | 24 | 64 | 16 | 20 | 15 |

(表2)

| | M | E | C | 土 |
|------|--|---|---|--|
| 1 日本 | あいつと私(石坂) 人つきあう法(河盛) けっばり先生(山口) 黒白の虹 | 破 戒(藤村) 人間滅亡の唄(深沢) 妄想銀行(星) 港の見える町 点と線(松本) 人間豹(乱歩) 残 映 人生論ノート(三木) | こころ(漱石) あいつと私 家族八景(筒井) | こころ 人間の壁(石川) 真田軍記(井上) 紀ノ川(有吉) ドクトルまんぼう小辞典 人面瘡(乱歩) 不死鳥(横溝) 限りなく透明に近いブルー エーゲ海に捧ぐ |
| 2 外国 | イワンのばか、人はなぜ 生きるか(トルストイ) 変 身(カフカ) アンネの日記 | 未成年(ドストエフスキ) 宇宙の戦士(ハインライン) | 地獄のわな(ルブラン) は虫類館の秘密(カー) 悪魔の報復(クイーン) | 異邦人(カミュ) 三国志(羅貫中) 宇宙大作戦 ペリロダーンSF 国富論(ミル) |
| 3 雑 | ギネスブック | ハムになる本 飛行機はなぜ飛ぶのか | 知的生産の技術(梅棹) 運のつく本 テレパシー入門 | |
| 計 冊 | 8 | 12 | 9 | 15 |

(附言) ことごとく批判するのちょっと気がひける。

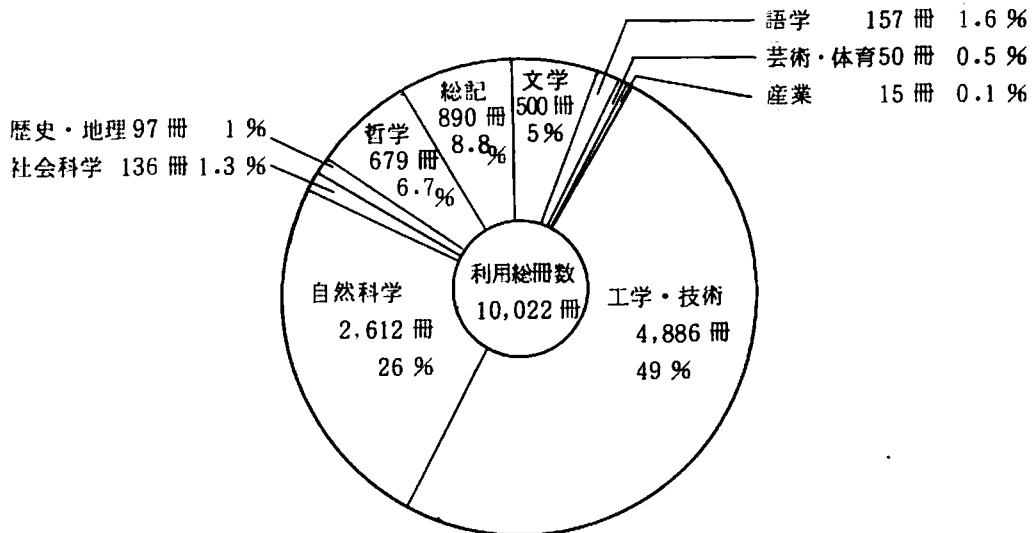
要するに、もっと系統的・意図的さらに本格的な読書の構えが強く強く望まれる。——年齢や学年や本校のレベルや学生の素質から言っても。(国語科)

利用者統計

1. 昭和51～53年度（3力年）学生利用状況

| NDC分類 | 利用冊数 年度 | 実 数 | | | % | | |
|-----------|------------|--------|--------|--------|------|------|------|
| | | 51 | 52 | 53 | 51 | 52 | 53 |
| 000 総 記 | | 589 | 254 | 890 | 5.2 | 2.4 | 8.8 |
| 100 哲 学 | | 844 | 685 | 679 | 7.4 | 6.4 | 6.7 |
| 200 歴史・地理 | | 165 | 148 | 97 | 1.4 | 1.4 | 1.0 |
| 300 社会科学 | | 226 | 161 | 136 | 2.0 | 1.5 | 1.3 |
| 400 自然科学 | | 2,808 | 2,960 | 2,612 | 24.9 | 28.0 | 26.0 |
| 500 工学・技術 | | 5,399 | 5,431 | 4,886 | 48.0 | 51.0 | 49.0 |
| 600 産 業 | | 22 | 26 | 15 | 0.2 | 0.2 | 0.1 |
| 700 芸術・体育 | | 118 | 79 | 50 | 1.0 | 0.7 | 0.5 |
| 800 語 学 | | 205 | 191 | 157 | 1.8 | 1.8 | 1.6 |
| 900 文 学 | | 924 | 710 | 500 | 8.1 | 6.6 | 5.0 |
| 合 計 | | 11,300 | 10,645 | 10,022 | 100 | 100 | 100 |

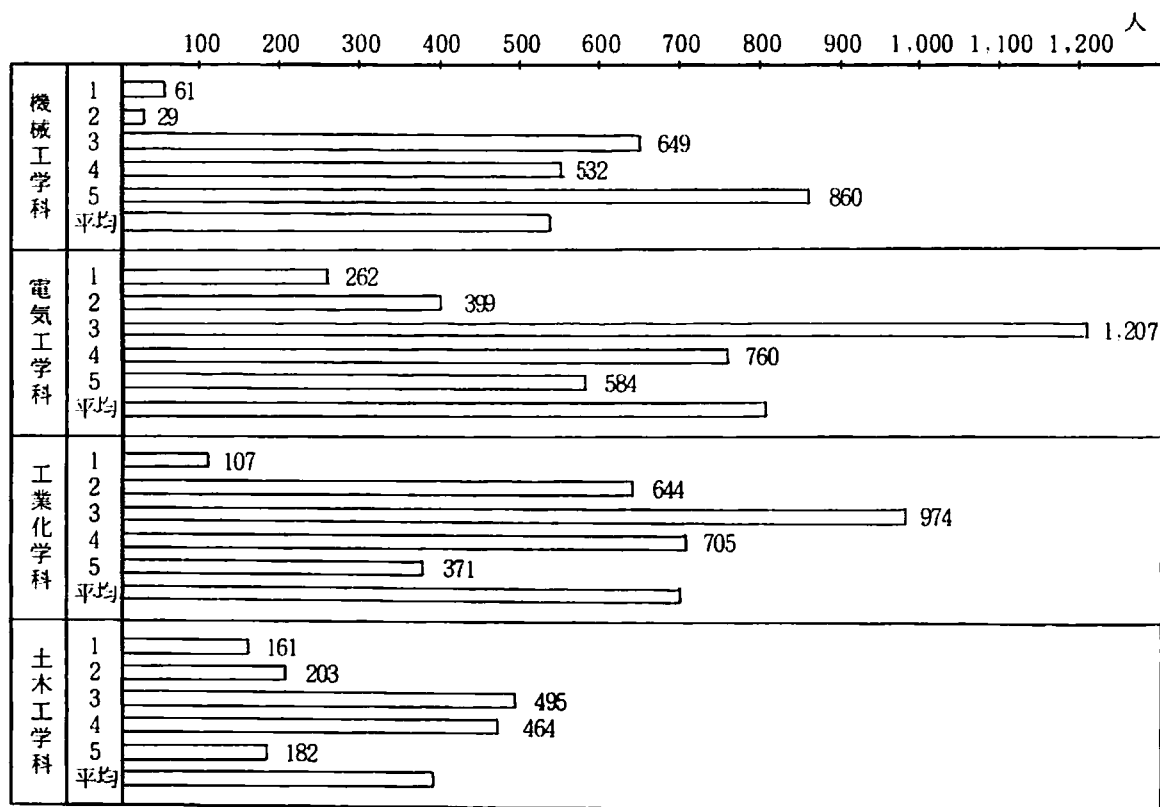
昭和53年度 分類別利用冊数



2. 昭和 53 年度利用人員（科・学年別）

| 科 \ 学年 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 計 | % |
|--------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 機械工学科 | 61 | 29 | 649 | 532 | 860 | 2,131 | 22.0 |
| 電気工学科 | 262 | 399 | 1,207 | 760 | 584 | 3,212 | 33.0 |
| 工業化学科 | 107 | 644 | 974 | 705 | 371 | 2,801 | 29.0 |
| 土木工学科 | 161 | 203 | 495 | 464 | 182 | 1,505 | 16.0 |
| 計 | 591 | 1,275 | 3,325 | 2,461 | 1,997 | 9,649 | 100 |
| % | 6.0 | 13.0 | 34.5 | 25.5 | 21.0 | 100 | |

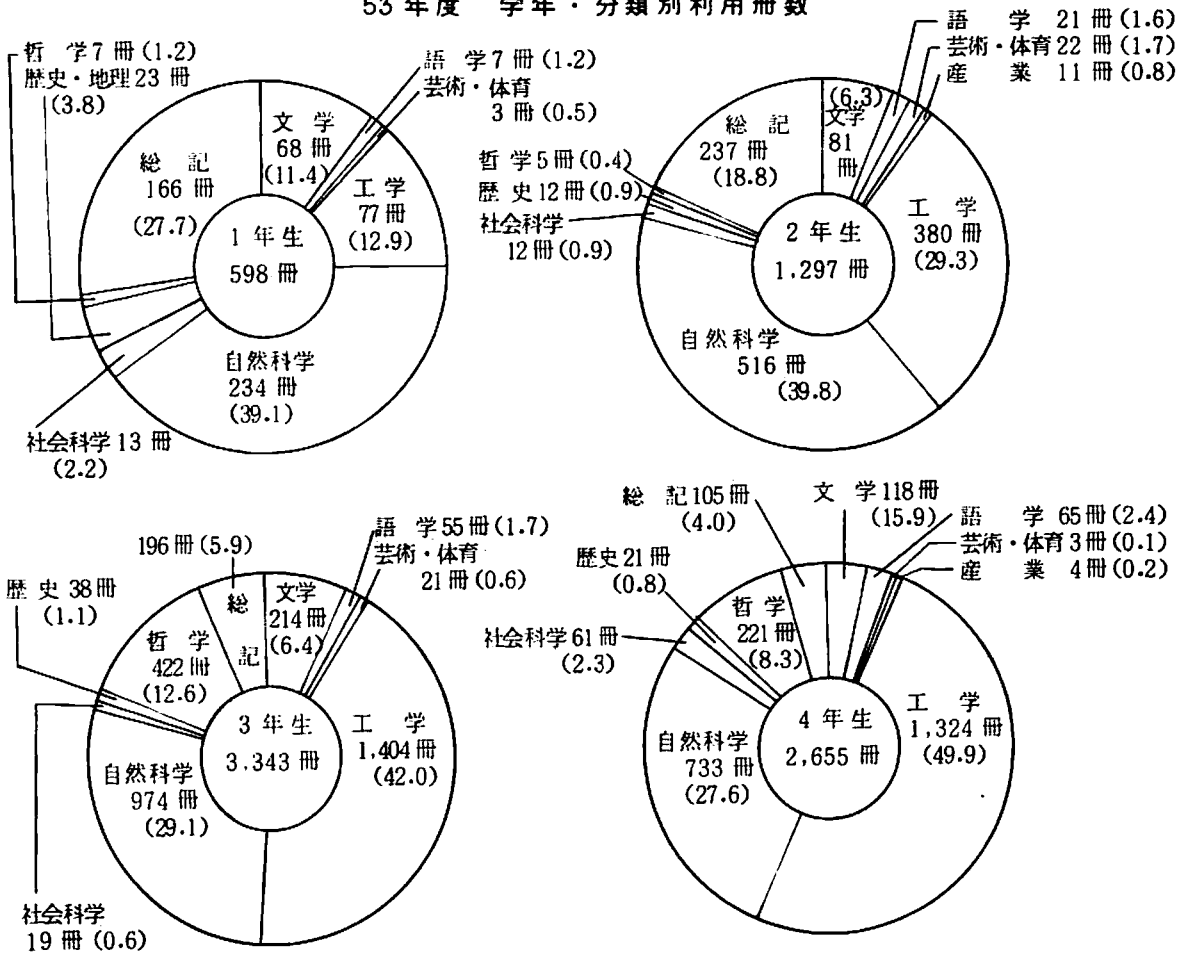
53 年度 科・学年別利用人員

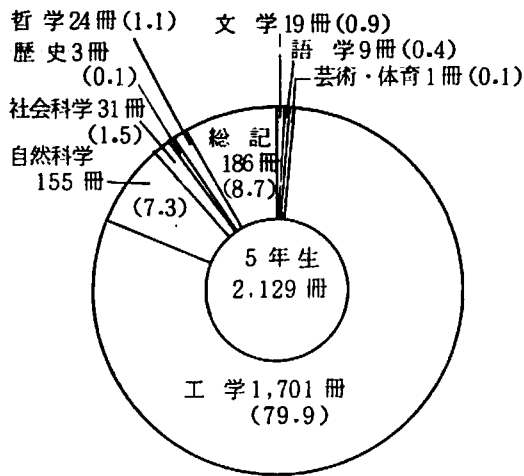


3. 昭和 53 年度 学年・分類別利用冊数

| NDC分類 | 学 年 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 計 |
|-------------|-----|-----------|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 000 総 記 | | 166(27.7) | 237(18.3) | 196(5.9) | 105(4.0) | 186(8.7) | 890(8.8) |
| 100 哲 学 | | 7(1.2) | 5(0.4) | 422(12.6) | 221(8.3) | 24(1.1) | 679(6.7) |
| 200 歴 史・地 理 | | 23(3.8) | 12(0.9) | 38(1.1) | 21(0.8) | 3(0.1) | 97(1.0) |
| 300 社 会 科 学 | | 13(2.2) | 12(0.9) | 19(0.6) | 61(2.3) | 31(1.5) | 136(1.3) |
| 400 自 然 科 学 | | 234(39.1) | 516(39.8) | 974(29.1) | 733(27.6) | 155(7.3) | 2,612(26.0) |
| 500 工 学・技 術 | | 77(12.9) | 380(29.3) | 1,404(42.0) | 1,324(49.9) | 1,701(79.9) | 4,886(49.0) |
| 600 産 業 | | | 11(0.8) | | 4(0.2) | | 15(0.1) |
| 700 芸 術・体 育 | | 3(0.5) | 22(1.7) | 21(0.6) | 3(0.1) | 1(0.1) | 50(0.5) |
| 800 語 学 | | 7(1.2) | 21(1.6) | 55(1.7) | 65(2.4) | 9(0.4) | 157(1.6) |
| 900 文 学 | | 68(11.4) | 81(6.3) | 214(6.4) | 118(4.4) | 19(0.9) | 500(5.0) |
| 合 計 | | 598 | 1,297 | 3,343 | 2,655 | 2,129 | 10,022 |
| % | | 6 | 13 | 33 | 26.5 | 21.5 | 100 |

53 年度 学年・分類別利用冊数





寄贈図書を紹介

このたび下記各位が、図書を寄贈して下さいました。厚くお礼申し上げます。ついでには末永く図書館に備付け活用させていただきます。

目黒 一 (第13回本校機械工学科卒業) 殿

海峽物語、螢川、化粧、イリュージョン、夕暮まで、限りなく透明に近いブルー、事故のてんまつ、凍河海を感じる時、早稲田の阿呆たち、詐欺師、錦が丘恋歌、愛と夢と現身と、もう類づえはつかない櫃の木祭、情事、神々の夕映え、深夜草紙、浅の川群色、ぼくらの時代、伸子、ロノ影村の一族、青い壺、神の岬、ロマネコンティー九三五年、僕って何、子育てごっこ、燃える秋、赤ん坊の生まれない日、密会、まひる野上・下、海の向こうで戦争が始まる、エーゲ海に捧ぐ、戒厳令の夜上・下、それでも若者ですか、九月の空

松下電器産業株式会社 殿

決断の経営

権 承勲 殿

今日の韓国、セマウル1977

芋川 平一 (本校教官) 殿

日本の仏教 岩波新書299、好奇心と日本人、講談社現代新書275、現代人のための仏教、講談社現代新書238、日本人とユダヤ人、しぐさの日本

文化

近畿大学工学部 殿

近畿大学工学部20周年記念論文集

千住金属工業株式会社 殿

四十年のあゆみ

いわき市役所 殿

第9回いわき市統計書昭和53年版

荒牧 一利 (熊本電波高専) 殿

ロシアマルクス主義の創生と展開に関する一考察

福島県保健環境部公害規制課 殿

公害白書昭和53年度版

国際電信電話株式会社 殿

21世紀への展望、国際電信電話年報昭和52年度
国際電信電話株式会社二十五年史

リーベルマンウェルシュリーエンドコンパニーエスエイロレックス時計部 殿

In The Spirit of Enthaerpris
from the Rolex Amards.

NHKいわき放送局 殿

NHK年鑑 Radio & Television
Yearbook '78

国際電信電話株式会社 殿

衛星通信年報昭和52年度

旭硝子工業技術奨励会 殿

旭硝子工業技術奨励会研究報告

阿部 孝範 (第13回本校工業化学科卒業) 殿

阿部傳三郎 和風 遺文集

防衛弘済会 殿

汗と涙とはほえみと

松崎三重良 (本校非常勤講師) 殿

改訂電子応用、電力応用Ⅰ・Ⅱ、新テレビジョン技術教科書、日本照明器具工業史、日本電球工業史、日本電球工業史追補版

新着図書目録

※印は図書館、他は各教官の研究室に所在するもの。分類別受入順

総記

- 福島民権編年誌 昭和53年11月～昭和54年1月号 福島民報社
 朝日新聞編年誌 昭和53年11月～昭和54年1月号 朝日新聞社
 朝日年鑑1979 別巻 同
 福島県郷土誌 歴史図書社
 ふくしま一世紀 福島民友新聞社
 写真年鑑1979 昭和54年版 きょうせい
 図説福島市史別巻 福島市教育委員会
 シュゲイ・イッサー著作集 第20巻 白水社
 日本の名号 27 大塚中斎 中央公論社
 人類の知的遺産 3 ゴータマ・ブツク 講談社
 62 マックス・ウェーバ 同
 東洋文庫 344 學漢叢談1 平凡社
 346 東海道名所1 同
 347 大本神話の巻1 同
 348 大本神話 火の巻 同
 349 鏡清小説史 同
 Evergmans Encyclopaedia 1～12 J.M.Dent

哲学

- 藤井正雄 仏教儀礼辞典 東京堂出版
 菅沼見 道元辞典 同
 史料記序 観賢辞典 同
 宮崎英修 日蓮辞典 同
 笠原一男 近世往生伝の世界 教育社
 田中英知太郎 思想に強くなること 文芸春秋
 古田敏彦 仏教の社会的機能に関する基礎的研究 創文社
 マックス・ウェーバ アジア宗教の基本的性格 勁草書房
 アジア宗教の教義論 P.フルキエ 公民の倫理 筑摩書房
 アヴィネリ ヘーケルの近代国家論 未来社
 仏教思想 3 因果 平楽寺書店
 日本仏教学会編 仏教における戒の問題 同
 朱子学大系

- 11 朱子の後継 下 明徳出版社
 日本仏教義理講座 4 淨土宗 雄山閣
 堀一郎著作集 学僧と学僧教育 未来社
 素養身体 1 道の思想 創文社
 道徳著作 キリストの誕生 新潮社
 ジンダール著作集 1 歴史哲学の諸問題 白水社
 2 貨幣の哲学 同
 4 カント、カントの物理的単子論 同
 5 シューベンハウアーとニーチェ 同
 6 哲学の根本問題、現代文化の高揚 同
 7 文化の哲学 同
 8 レンブラント 同
 9 生の哲学 同
 10 芸術の哲学 同
 11 断想 同
 12 権と業 同
 聖書外典叢刊 1 旧約外典Ⅰ 教文館
 2 同Ⅱ 同
 3 旧約外典Ⅲ 同
 4 同Ⅳ 同
 5 同Ⅴ 同
 6 新約外典Ⅰ 同
 7 同Ⅱ 同
 現代人の古典 武道初心集 地閣書店
 眞理 同
 純聖書 同
 葉根譯 同
 尺庵不動醫神診録 同
 往生要集 同
 武家の家訓 同
 日蓮立正安国論 同
 典座教訓 社外療法 同
 高家の家訓 同
 一休狂言集 同
 親堂書簡集 同
 二宮翁夜話 同
 Averrois Corpus Commentariorum Averrois in Aristotelem Aedraal Academy of America
 歴 史 神沼克伊 氷の大陣 床種 玉川大学出版部
 L.フェルミ ガリレオ伝 講談社
 樋口忠彦 景観の構造 技報堂出版
 井上光貞 鉄剣の謎と古代日本 新潮社
 竹内理三 日本史小辞典 角川書店
 角川日本地名大辞典 13 東京部 同
 世界考古学辞典 上下 平凡社
 コンサイス地名辞典 日本編 外国編 三省堂
 別掲掲載

- ヨーロッパ南と北 三修社
 前嶋信次 シルクロード事典 芙蓉書房
 カラー世界史資料 平凡社
 泉原武夫 他 歴史と文明の探求 上下 中央公論社
 木内信藏 都市地理学原理 古今書院
 小林高壽 風土の視点 笠間書店
 E.C. センプル 環境と人間 古今書院
 富岡儀八 日本の雄道 同
 沢田清 日本の都市圏 同
 地理学文献目録 第6集 大明堂
 中国古代人の学術と政治 大修館書店
 J.B. ガルニエ 地理学における地域と空間 地人書房
 日本都市学会編 都市と文化 同
 西洋古代史講義Ⅲ 東京大学出版局
 古代人の古典 碧瀟舟文官抄 徳間書店
 宋名臣言行録 同
 中國名將列伝 同
 戦国武将の書翰(一)(二) 同
 フロイス日本史 1 豊臣秀吉Ⅰ 中央公論社
 2 同Ⅱ 同
 3 五畿内Ⅰ 同
 4 同Ⅱ 同
 5 同Ⅲ 同
 6 豊後Ⅰ 同
 7 同Ⅱ 同
 8 同Ⅲ 同
 日本古代人名辞典 1 あ え 吉川弘文館
 2 お か 同
 3 き さ 同
 4 し て 同
 5 と ひ 同
 6 ふ や 同
 7 ゆ わ 新装増補頭字索引 同
 講評比較文化 1 日本列島の文化史 同
 2 アジアと日本人 同
 3 西ヨーロッパと日本人 同
 4 日本人と生活 同
 5 日本人と技術 同
 6 日本人と社会 同
 7 日本人と価値観 同
 8 比較文化への展望 同
 国史大辞典 1 あ い 吉川弘文館
 日本地誌 19 福岡県九州地方総論 二宮書店
 図説日本文化の歴史 1 先史 歴史 小学館
 明治人正認誌 14 戸内 筑摩書房
 海音寺南五郎 2 新日本史探訪 角川書店
 日本国民文化史料集成 別巻総合年表 三一書房
 日本の山河 35 天と地の脈 東京 図書刊行会

39 岡 新木
NHK ブックス
332 江戸の情報屋 日本放送出版協会
334 中央アジア遺跡の旅 同 社
335 東京の原風景 同 社
337 現代の「地名考」 同 社
トレジャーローパー
祭典改革と社会運動 未来社

社会科学

ジャパンタイムズ社説集 1978年
ジャパンタイムズ社
最新世界現勢 平凡社
現代の家族 有斐閣
東京大学公開講座 家 東京大学出版会
構人論 上下 大月書店
共同研究転向 改訂増補 上 平凡社
九山真男
戦中と戦後の間 みずび青房
吉田信一
木村王国の崩壊 朝日新聞社
加藤秀俊
習俗の社会学 PHP 研究所
池井望 盆歌の社会学 世界思想社
深作光貞
ミイラ文化誌 朝日新聞社
米山俊直編
民衆の生活と文化 未来社
桜井徳太郎
日本宗教の複合的構造 弘文堂
菊池邦作
徳兵息遊の研究 立風書房
村上信彦
高杉透枝と柳田國男 大和書房
池田進編
大正の教育 第一法規
中島文雄編
茶米制度 慣習事典
秀文インターナショナル
日本教育年鑑 '79 昭和54年版
ぎょうせい
鈴木栄三
日本年中行事辞典 角川書店
祭りと芸能の旅
1 北海道 東北 ぎょうせい
2 関東 甲信越 同 社
3 東海 北陸 同 社
4 近畿 同 社
5 中国 四国 同 社
6 九州 沖縄 同 社
ふおるく叢書
1 しつけ 弘文堂
2 性 同 社
3 実身 同 社
4 からだ 同 社
5 献身 同 社
6 害 同 社
7 教い 同 社
8 約束 同 社
金山寛夫
■際遇応酬辞マニュアル 産能大
世界の民話
1 ドイツ スイス ぎょうせい
2 南欧 同 社

3 北歐 同 社
4 東欧 1 同 社
5 同 2 同 社
6 イギリス 同 社
7 アフリカ 同 社
8 中近東 同 社
9 アジア 1 同 社
10 同 2 同 社
11 アフリカ大陸 1 同 社
12 同 2 同 社
13 地中海 同 社
14 ロートリンゲン 同 社
15 アイランド他 同 社
16 アルバニア他 同 社
17 カビール他 同 社
18 イスラエル 同 社
19 バンジャブ 同 社
20 コーカサス 同 社
21 モンゴル 同 社
22 インドネシア他 同 社
23 パプアニューギニア 同 社
24 エスキモー 同 社
25 解説編 同 社
加藤一郎
東京大学公開講座 親と子 東京大学出版会
一番ヶ崎康子
家族問題と社会保護 高文堂
ジョン・K. ガルブレイス
不確実性の時代 ブリタニカ
早月篤 家族関係と家族福祉 高文堂
宮田光雄
平和の思想史的研究 創文社
中川浩一
近代地理教育の源流 今古書院
田中幹三
作業地理教授の源流と実践 同
石原邦敏
フランスの地域構造と産業立地 同
楠木守一
学歴社会の転換 東京大学出版会
細谷敏夫
教育学研究入門 同
現代日本の共同体
1 現代社会と人間 学陽書房
2 家 家族 同 社
3 地域社会 同 社
4 職場 職業社会 同 社
5 国家 同 社
講座家族
1 家族の歴史 弘文堂
2 家族の構造と機能 同 社
3 婚姻の成立 同 社
4 婚姻の解消 同 社
5 相続と継承 同 社
6 家族 親族 同 社
7 家族問題と社会保護 同 社
8 家族観の系譜 総索引 同 社
家族政策と法
1 総論 東京大学出版会
2 現代日本家族の政策 同 社
3 戦後日本家族の動向 同 社
5 社会主義論 新興
7 近代日本の家族観 同 社
西欧政治思想史
■ マキアヴェリとホッブズ 福村出版
D 自由主義と政治哲学の源流 同 社

V 組織化時代の政治思想 同 社
政治の世界
1 イデオロギー 同 社
代表 同 社
国益 同 社
官僚制 同 社
平等 同 社
伝統と権威 同 社
全体主義 同 社
革命 同 社
M. ウェーバ
支配の社会学 1 経済と社会 創文社
同 2 同 同 社
音楽社会学 同 社
法社会学 経済と社会学 2部 同 社
都市の類型学 同 社
宗教社会学 同 社
玉野井秀郎他
地域主義 学陽書房
福尾猛市郎
日本家族制度史概説 吉川弘文館
A. ミッチャーリヒ
父親なき社会 新泉社
現代人の古典
甲塚重雄 徳間書店
宮本武蔵 五輪書 同 社
戦争論 同 社
貞實政要 同 社
孫兵兵法 同 社
武運秘伝書 同 社
陸奥孔明の兵法 同 社
史跡中国の兵法 同 社
梅神忠夫編
長博誕生 (中公新書 519) 中央公論社
比較生活文化事典
1 日本 アメリカ メキシコ 大修館書店
2 中国 ホンコン 同 社
3 イギリス エジプト インドネシア 同 社
講座社会心理学
1 個人の社会行動 東京大学出版会
2 集団行動 同 社
3 集合現象 同 社
日本民族文化大系
8 石田英一郎 講談社
11 内藤湖南 宇野浩吉 同 社
総合研究アメリカ
1 人口と人種 研究社
2 環境と資源 同 社
3 民主政と権力 同 社
4 平等と正義 同 社
5 経済生活 同 社
6 思想と文化 同 社
7 アメリカと世界 同 社
フェークロアの訳
1 神がかり 図書刊行会
2 雷国と暮らし 同 社
3 選ぶ 同 社
4 子ども組 同 社
5 獅子の平野 同 社
6 田の神まつり 同 社
7 湯の暮らしと祭り 同 社
8 よみがえり 同 社
9 花祭り 同 社
10 雲を招く 同 社
John W. Oller

Language in Education Testing
the Tests Newbury Houst
E.I. Black
Practice Papers in English
Language John Murray

自然科学

高等の化学 森北出版
流体における音の伝播と減衰 日本技術資料協会
理工学のための数学ハンドブック 丸善
PSSC 物理 上 岩波書店
同 下 実験指導書つき 同
同 別冊 同
数値計算ライブラリ 1 線形計算 日立製作所
同 2. 方程式数値積分 同
永坂孝子 FORTRANによる計算技術 昭晃堂
岡田泰実 統計学概論 共立出版
清水良一 中心極限定理 教育出版
廣津千尋 分散分析 同
L.H.C テンベット 統計学 東京大学出版会
E.クライフィグ 数理統計 1, 2. 培風館
守田栄 新版編纂と騒音防止 オーム社
R.C. エバンス 結晶化学入門 下 培風館
W.L. ブラック 結晶学概論 岩波書店
瓜谷富三 わかりやすいME 学研会
トーマスクーン 科学革命の構造 みすず書房
M. フィールツ 力学の発展史 同
W.K. ハイゼンベルク 現代物理学の自然像 同
現代物理学の思想 同
A. カチェルスキー 生物物理学における非平衡の熱力学 同
内山鶴彦 一般相対性理論 裳華房
マッハ 熱学的路原理 北海道大学出版会
西島和彦 力学系と自然法則 産業図書
W. ハイゼンベルク 科学における伝統 みすず書房
日本物理学会編 極限状態の物理 丸善
高橋秀俊 数値と現象 岩波書店
マンテリャーナ ガリレオ史料 同
C.H. シンガー 科学思想のあゆみ 同
原島幹 熱学演習 熱力学 裳華房
E.L. レーマン ノンパラメトリックス 森北出版
徳九克己

有機光化学反応論 湯川秀樹
物理講義 講談社
田口玄一 実験計画法 上 下 丸善
林周二 統計学概論 同
林 毅 文化の中の数学 新潮社
守屋宣次郎 空気の力学 培風館
D.E. Knuth 基本算法 1. 基礎概念 サイエンス社
同 2. 情報構造 同
雨宮敏夫 数値解析と FORTRAN 丸善
カルナップ 物理学の哲学的基礎 岩波書店
ランダウ 物理学力学から物性論まで 同
スコーンランド 原子の歴史 みすず書房
ライフ 統計熱物理学の基礎 上・下 吉岡書店
エリ. ランダウ 流体力学 2 東京図書
日本化学会編 日本の化学百年史 東京化学同人
G.E. フェーサイス 計量機のための線形計算の基礎 培風館
井本隆 ワッドワード・ホフマン則を使うために 化学同人
上野景平 EDTAコンプレキサン化学 南江堂
J. Newman ガスクロマトグラフィー最近の進歩 同
Paul Delahay 電気化学システム コロナ社
佐藤秀 電気二重層と電極反応機構 同
岩倉義男 物理化学機分分析の基礎実験 同
有機合成化学 同
井本隆 私たちの有機化学 東海大学出版会
J.M. Bobbitt 入門クロマトグラフィー 東京化学同人
D.J. Pasto 有機化合物の構造決定法 同
千葉義隆 化学熱力学演習 学研社
荒木磯男 化学標準問題と解説 技報堂出版
西村良男 臨床検査技師のための有機化学 同
高橋武彦 電気化学概論 棋書店
太田顕光 新版分析化学 産業図書
根本順吉 気象の周辺 玉川大学出版部
力武常次 地球と磁石 同
和田英夫 異常気象 講談社
萩原幸夫 地球重力をさぐる 同
原田幸夫 流体の力学 棋書店
科学技術英表現辞典刊行会編 科学技術英表現中辞典 日本科学技術英語研究会

東京化学同人
科学技術論文報告書用英語文型例辞典 同
河田敬義 他 岩波講座基礎数学 岩波書店
瀬口博樹 分析業務の管理と技術 産業図書
水池敦 分析化学概論 同
芥田博 太陽系発見の狂想 地人書館
須田健雄 太陽黒点の予言 同
河原都夫 星空のはなし 同
島 誠 星の誕生と宇宙の塵 玉川大学出版部
小尾信彌 宇宙のルネサンス 同
長谷川一朗 天文計算入門 恒星社
吉田正太郎 望遠鏡光学 誠文堂新光社
E.G. キブソン 現代の太陽像 講談社
鈴木壽壽子 星のふるさと 誠文堂新光社
竹中俊夫 S1の使い方 オーム社
角田忠信 日本人の脳 大修館書店
S. バトラー, R. レイモンド 絵でみる物理学 東京図書
兵口博樹 無機分析 産業図書
海外研究開発レポート 流体の流れに伴う振動の発生と解析 日本技術資料協会
現代人の古典 養生訓 徳間書店
共立ライブラリー 16 電子の分光 共立出版
標準応用化学講座 16 光化学 コロナ社
無機化学シリーズ 6 酸化と還元 培風館
新実験化学講座 1 基本操作 1, 2 丸善
13 有機構造 1, 2 同
14 有機化合物の合成と反応 2~5 同
15 酸化と還元 2 同
16 反応と速度 同
17 物質の構造と物性 同
19 高分子化学 1, 2 同
20 生物化学 1, 2 同
21 総索引 同
NHK ブックス 4 科学の思想 日本放送出版協会
38 宇宙と人間 同
72 太陽系の科学 同
163 星の一生 同
167 日本人の天文観 同
201 宇宙空間の科学 同
329 神秘の光オーロラ 同
333 中国の地震予知 同
ブルーバックス 341 進化する星と銀河 講談社
353 心とからだ 同
354 天体写真入門 同
356 宇宙の終焉 同
361 洞窟学入門 同

| | | | | | | | | |
|--|---|-----------|-------------------------|----------|------------------|------------------------|-----------|----------|
| 363 | 場とはなにか | 同 中 | 工業化学概論 | 同 中 | 吉田敏一 | フルイティクスの使い方, 作り方 | 同 中 | |
| 364 | 改訂新版なぜ磁石は北をさす | 同 中 | 佐々木新夫 | | 中島重雄 | 技術レポートの書き方 | 朝倉書店 中 | |
| 365 | 近代物理学の発想 | 同 中 | マイクロコンピュータ, システム | 共立出版 | 中野信隆 | 金属と鉄鋼材料 | パワー社 中 | |
| 368 | 科学の道楽地 | 同 中 | 関分則男 | | 安達公一 | 電子顕微鏡利用の基礎 | 共立出版 中 | |
| 369 | 化石の手帖 | 同 中 | マイクロコンピュータ入門 | オーム社 | O. C. ツイエンキーヴィッツ | 基礎工学におけるマトリックス有限要素法 | 培風館 中 | |
| 371 | ホワイト, ホール | 同 中 | 加藤邦敏 | | | 下水道施設設計指針と解説 | 日本下水道協会 | |
| 372 | 数学バスの世界 | 同 中 | 化学機械と装置の歴史 | 産業技術センター | | 海外研究開発レポート中ぐり加工性能と中ぐり盤 | 日本技術調査 | |
| 374 | 生物はなぜ進化したか | 同 中 | 依田尚 他 | | | 穴あけ加工とドリル | 同 | |
| 375 | 美しい管理物理学 | 同 中 | 推計学の交通工学への応用 | 技術書院 | L. J. Segerlind | 応用有限要素解析 | 丸善 中 | |
| R. Tomovic | 人間の手足の制御 | 学友社 中 | R. E. グットマン | | T. G. Hicks | 技術論文の書き方 | 近代科学社 中 | |
| Walter Rudin | Fourier Analysis on Groups | | S. A. アムバルツミヤン | | 中田孝 | 工学解析 | オーム社 中 | |
| Beniamino Segre | Lectures on Modern Geometry | | 石田勉久 | | 北川一雄 | トランジスタ実験と工作マニュアル | オーム社 中 | |
| Basic English for Science | Oxford 中 | | 金子敏夫 | | | デジタル IC 実験と工作マニュアル | 同 中 | |
| 海外技術情報シリーズ | | | JIS に基づく, 曲圧回路図の見方, 書き方 | オーム社 | 永田博 | IC 実用増幅器とその応用 | 日刊工業新聞社 | |
| Turbulent Flow in a Pipe Inlet Region | マンケン技術情報 | | 北川一雄 | | 神元五郎 | 高速運動 | コロナ社 | |
| Keith Purvis | Read and Note English Study Skills for Science and Medicine | Heinemann | 植マイコン実験と工作マニュアル | 同 | 横井与次郎 | リニア IC 実用回路マニュアル | ラジオ技術社 | |
| Plasma Physics and Controlled Nuclear Fusion Research 1976 | Vof 1~3 | IAEA | プラントの, ティチュニス | | | デジタル IC 実用回路マニュアル | 同 | |
| | | | 航空流体力学 上巻 | 産業技術センター | | JIS 用語辞典 | JIS 機械編 | 日本規格協会 中 |
| | | | 金属表面検査試験法ハンドブック | 共立出版 | 永田博 | IC 実用増幅器とその応用 | 日刊工業新聞社 | |
| | | | G. カレン | | 森亮一 | 非線形電子回路 | 昭見堂 | |
| | | | 都市の景観 | 豊島出版会 | 渡辺誠 | 集積回路 | 同 | |
| | | | 配管工学研究会編 | | 日本音響学会編 | 騒音運動 上 | コロナ社 | |
| | | | 配管ハンドブック | 産業図書 中 | 吉岡光春 | 工場騒音対策の実際 | 同 中 | |
| | | | 応用機械工学全書 | | 三輪修三 | 回転機械のつりあわせ | 同 中 | |
| | | | 1 機械製作法 1~4 | 森北出版 | 浜島操 | ガスタービン | 同 中 | |
| | | | 松村寿輔 | | 丹野慶四郎 | ガス工学 | 同 中 | |
| | | | 解説熱力学の計算法 | 電気大出版局 | 早坂寿雄 | 音響工学入門 | 日刊工業新聞社 中 | |
| | | | 越後雅夫 | | 福田基一 | 騒音防止工学 | 同 中 | |
| | | | だれでもわかる解説と演習, 熱力学の基礎 | 啓学出版 | 設文正雄 | 燃焼の理論と計算法 | オーム社 中 | |
| | | | 日本機械学会編 | | R. A. ストリーロ | 基礎燃焼学 | 森北出版 中 | |
| | | | 機械用語集 | 日本機械学会 | ハーマン, H | 計算機の歴史 | 共立出版 中 | |
| | | | 岡野俊一 | | 森口繁一 | 応用数学夜話 | 日科技連 中 | |
| | | | 回読機械用語辞典 | 実教出版 | 山谷正己 | 仮想計測機 | 共立出版 中 | |
| | | | 川下研介 | | 米津栄 | 機械工作法 1 | 朝倉書店 中 | |
| | | | 伝熱工学入門 | 産業技術センター | 五百沢智也 | 新編登山者のための地形図読本 | 山と溪谷社 中 | |
| | | | 田島清海 | | | | | |
| | | | 振動の工学 | 産業図書 | | | | |
| | | | 前澤成一郎 | | | | | |
| | | | 振動工学 | 森北出版 | | | | |
| | | | 入江敏博 | | | | | |
| | | | 演習機械振動学 | 朝倉書店 | | | | |
| | | | 西村正己 | | | | | |
| | | | 機械振動工学演習 | 産業図書 | | | | |
| | | | 図解電気設備の設計と施工 | 電子書院 | | | | |
| | | | 火力発電便覧 | オーム社 | | | | |
| | | | K. Weissner | | | | | |
| | | | 工業有機化学 | 東京化学同人 | | | | |
| | | | 三木幸蔵 | | | | | |
| | | | わかりやすい岩石と岩盤の知識 | 豊島出版会 | | | | |
| | | | 土木建築技術者のための最新コンクリート | 建設産業調査会 | | | | |
| | | | 施工ハンドブック | 建設産業調査会 | | | | |
| | | | 進藤吉郎 | | | | | |
| | | | 表面工学 | 養賢堂 中 | | | | |
| | | | 大谷南海男 | | | | | |
| | | | 金属の塑性と腐食反応 | 産業図書 中 | | | | |
| | | | 別役万愛 | | | | | |
| | | | メカニズム | 技術堂出版 中 | | | | |
| | | | 池辺洋 | | | | | |
| | | | 解説サーボ機構とその要素 | オーム社 中 | | | | |

工学・技術

機械図面集 上巻 下巻 日本機械学会
 技術資料管轄タクトの流体力学 同
 セトフ 連続体力学 培風館
 D.C.リ- 非線形連続体力学 共立出版
 山田憲昭 他 塑性粘弾性有限要素法のプログラム
 デザイン 培風館
 河島祐男 他 動的応答解析、熱伝導と熱応力 同
 10 合本1 工学社
 10 別冊1 マイコン徹底研究 同
 同 3 BASICゲーム徹底研究 同
 同 4 マシン語徹底研究 同
 同 5 ランダム、ボックス 同
 上山直彦 サイリスタモータの原理と運転 電気書院
 山田一 リニアモータと応用技術 実教出版
 伊藤健一 アース回路 日刊工業新聞社
 中島吉雄 シーケンス制御の基礎と応用 オーム社
 守田実 騎音響入門 同
 和田忠夫 音響メカニズム設計 テクノ
 菅津真里 水波工学 実教出版
 榎下行三 マイクロコンピュータ(1)
 エレクトロニクスダイジェスト
 同 2 プログラム編 同
 谷下市松 太陽エネルギーの利用 恒厚社
 つくるコンピュータ CQ出版
 窪田啓次郎 ファクシミリとその応用 産報社
 白井良明編 ロボット 共立出版
 合田周平 ロボット工学 コロナ社
 大山彰 原子力発電 同
 水谷幸夫 燃焼工学 森北出版
 栗野謙 高温熱技術 東京大学出版会
 中山秀太郎 技術史入門 オーム社
 内田肇 発明考案入門心得帖 同
 最新 ICトランジスタ回路アイデア集 誠文堂新光社
 プラズマ工学 コロナ社
 S.Timoshenko 材料力学 下巻 同
 江守忠哉 JIS標準数活用マニュアル 日本規格協会
 中川敬 科学者、技術者のためのフォートラン入門 東京化学同人
 宮川松男 JIS塑性加工品の製品設計 日本規格協会
 福永太郎 JIS使い方シリーズ機械製図マニュアル 同
 大和久重雄 JIS鉄鋼材料選択のポイント 同
 石井義郎 有機製造化学概論 コロナ社

村田裕 マイクロコンピュータの本格的応用 CQ出版
 伊藤誠 基本ハードウェア技術 同
 セレンセン、コガエフ 機構要素強度計算便覧 森北出版
 W.F.エイムズ 工学における非線形偏微分方程式 I 産業図書
 内藤克人 鉄匠の時代 サンケイ出版
 宇都宮敏男 電気工学実験大要 東京大学出版会
 紀谷俊夫 技術教育概論 同
 佐々木暁 都市交通計画 国民科学社
 山田博 精密小形モータの基礎と応用 総合電子出版社
 新形機械工学実験実習 東海大学出版会
 井澤實 機械設計工学 理工学社
 平野達 技術英文のすべて 丸善
 角田秀夫 オペアンプ基本と応用 電機大出版局
 坂谷太一 ミニコンから使えるFORTRANの基礎と演習 慎書店
 角田秀夫 デジタル集積回路 電気大出版局
 P.L.Lの基本と応用 同
 MOS集積回路 近代科学社
 アナログ集積回路 同
 電界効果トランジスタ 同
 H.R.Camenzind 集積回路の設計 同
 IC応用回路アイデア集 誠文堂新光社
 杉田健 100万人のマイクロコンピュータ 上巻 下巻 テクノ
 作井誠太編 100万人の金算学 技術編 アグネ
 同 科学編 同
 三島良輔 同 材料編 同
 山田義昭 歯車歯切機械工作法 パワー社
 J.T.ゴールドマン FORTANプログラム技術 培風館
 山之内一郎 ICカラーテレビ 日本放送出版協会
 島海右近 図解機構設計事例 現代理工学出版
 福田秀雄 設計のための材料力学 廣川書店
 ギャラガー 有限要素解析の基礎 丸善
 エム.エス.ゴールドシュテイン 新しい土質力学 I 森北出版
 朝倉建築工学講座 2 構造力学 朝倉書店
 理工学海外名著シリーズ 26 材料力学と実分法 ブレイン図書
 最新機械工学シリーズ 3 機械力学 森北出版
 わかり易い土木講座 2 測量 I 基礎 彰国社
 最新機械工学講座 14 機械工作法 I コロナ社

機械工学大系
 11 気液二相流 同
 12 レオロジー 同
 NHKブックス
 336 古代建築のイメージ 日本放送出版協会
 技術文献調査資料図形認識と解析 特許技術資料センター
 マグロ-ヒル科学技術用語大辞典 日刊工業新聞社
 電気用品取締法関係法令集 日本電気協会
 昭和54年電気学会全国大会講演文集 電気学会
 日本機械学会講演論文集 No.790 2~7 日本機械学会
 ブルーバックス
 366 原子力への挑戦 慎誠社
 367 ソフトウェア思考法 同
 370 発想工学のすすめ 同
 海外開発レポート
 歯車歯切に対する荷重と応力解析 学会サービスセンター
 E.Hinton Finite Element Programming Academic
 N.I. Muskhelishvili Some Basic Problems of the Mathematical Theory of Elasticity Noordhoff
 J.T.Oden Mechanics of Elastic Structures Mc Graw-Hill
 Zohar Manna Studies in Automatic Programming Logic North-Holland
 A.R.Luxmoore Numerical Methods in Fracture Mechanics Univ College Swansea
 James V.Beck Parameter Estimation in Engineering and Science Wiley
 G.A.Pittman Preparatory Technical English Longman
 産 業
 駒村富士弥 治山砂防工学 森北出版
 G.エクボ 景観論 鹿島出版会
 B.ハケット ランドスケーププランニング 同
 神立春樹 練工業都市の成立 古今書院

松井貞雄 日本の温室莖菜地域 大明堂
 坂本英夫 輸送莖菜の地域的分析 同
 長岡順 日本農業の地域構造 同
 北村嘉行 流通情報の地域構造 同
 科学ブックス 24 森そのしくみとはたらき 共立出版

芸術

武井邦彦 日本色彩事典 笠間書院
 現代人の古典 山岡鉄舟 剣神話 徳間書店
 増補役者談話 同
 浮世絵家花 11 大英博物館 小学館
 大和古寺大観 2 当麻寺 岩波書店
 新修日本絵巻物全集 22 石山寺縁起 角川書店
 日本絵巻大成 23 伊勢物語絵巻 袷衣物語絵巻 駒眼行 幸絵巻 源氏物語絵巻 中央公論社
 24 当麻曼茶羅縁起 稚児観音縁起 同

語学

鈴木榮三 故事ことわざ辞典 東京堂出版
 同 続 同
 斎藤秀三郎 前置詞用法詳解 吾妻書房
 副詞接続詞詳解 同
 助動詞用法詳解 同
 叙法時制詳解 同
 動詞構文詳解 同
 冠詞用法詳解 同
 英語学習総合事典 同
 北川大憲 英文通格表現辞典 ジャパンタイムズ
 本間徹夫 高校生のための文章観本 一光社
 松本安弘 英語への招待 蒼竹出版
 P ミルワード 日英ことわざ考 同
 横垣実 外来語のカルテ E.L.E.C出版
 マイク・ブラウン すぐ使える会話のイディオム 主婦の友社
 C.K.Ogden ベーシック英英辞典 北星堂
 奥津文夫 ことわざ英語と日本語 サイマル出版
 村松増英 私も英語が話せなかった 同
 佐々木高政 英文解釈考 金子書房
 中津淑子 再びなんて英語やるの 文芸春秋
 橋本光郎

英語の電話はこわくない 創元社
 太田垣正義 英語の語源 同
 磯貝嘉久 実務英語活用マニュアル 研究社出版
 武部良明 漢字の読み方 角川書店
 山田勝美 漢字の語源 同
 大塚高信編 新クラウン基本英和辞典 有斐閣
 高部義信 アメリカ新語辞典 研究社
 和町達也 英文読解辞典 角川書店
 田井信之 日本語の語源 同
 藤村靖 音声科学 東京大学出版会
 金田一春彦編 学研国語大辞典 学習研究社
 大塚高信 英語辞典縮刷版 三省堂
 金田健明 直撃合格英単語 朝日ブッキングニュース社
 昭和53年度入試出題精選英文 研究社
 J.C.リチャーズ 目で見えるアクション英単語集1〜3 オックスフォード大学出版局
 オパールダン 英語へのパスポート基礎併行編 同
 同 応用滞在編 同
 E.C.Parnwell オックスフォード英和辞典 同
 北川大憲 新英文手紙の公式 ジャパンタイムズ
 安田哲夫 新聞英語の字ひ方 同
 東後勝明 話す英語の表現集 同
 黒川省三 アメリカからみた日本人の英語 同
 三好弘 会話のためのやさしい英語表現の常識 同
 堀内克明 小事典英語Q&A 同
 村本正武 意味論(現代の英文法?) 研究社
 岩瀬文流基金編 日本人の発想から英語の表現へ 同
 ヘレンボスト 口語英語の比喩表現 同
 松本道弘 斬れる英語 朝日ブッキングニュース社
 Arnold Leonhardi 例解英語用法辞典 主婦の友社
 マイク・ブラウン すぐ使える会話のイディオム 同
 K.Clay 英語イディオム集中演習 Oxford
 イディオム活用辞典 同
 新村出編 広辞苑 第二版補訂版 岩波書店
 新訳漢文大系 65 文心雕龍 下 明治書院
 77 世説新語 中 同
 79 文選(感麟)上 同
 76 貞觀政要 下 同

昭和53年度大学入試英語問題の徹底的研究 研究社
 新英和大辞典 同
 B.J.Thomas Practical Information Edward Arnold

文学

世界のSF文学総解説 自由国民社
 唐の文芸 蘇村運句 小学館
 吉川幸次郎全集 22 筑摩書房
 石川忠久 漢詩の風景 大塚誠吾書店
 角田房子 碧雲日本ベニシリン物語 新潮社
 山田鶴英 中国名詩選英辞典 角川書店
 後藤北宗夫 わが愛する俳人 第一集 有斐閣
 成瀬松桃子 同 第二集 同
 坪内桂典 他 同 第三集 有斐閣新社
 大野益夫 他 わが愛する歌人 第一集 同
 森 弘 同 第二集 同
 宗伏信助 有職故実 日本の古典 角川書店
 森本哲夫 詩人と俳諧村の世界 至文堂
 戦争の狂言 1 死の影に生きて 太平出版
 2 戦災孤児の記録 同
 3 ヒロシマ絶後の記録 同
 4 学童集団疎開 同
 5 無名兵士の詩集 同
 6 帝都炎上 同
 7 戦火に生きた父母たち 同
 8 ひとすじに星は流れて 同
 9 わかれ 同
 10 満洲一 修羅の群れ 同
 11 中国人強制連行の記録 同
 12 南京・広島 同
 13 神と愛と戦争 同
 14 ぼくら愚めり少国民 同
 15 戦争の横顔 同
 16 沖縄戦敗兵日記 同
 17 海軍特別警備隊 同
 18 16才の兵器工場 同
 19 ヒロシマの夜の廃神から 同
 20 1945年慟哭の満洲 同
 日本文学全史 1 上代 学燈社
 2 中古 同
 3 中世 同
 4 近世 同
 5 近代 同
 6 現代 同
 ヴァージニア・ウルフ 著 1 夜と星 みすず書房
 2 ジェイコブの部屋 同
 3 グロウエイ夫人 同
 4 燈台へ 同
 5 波 同

| | | | | |
|------------------|-------|-------------|--------------|-------|
| 6 異聞 | みすず書局 | ドイツ中世叙情詩集 | ヴィクトールユーゴ | 評論社 |
| 7 詩論 | 同 | ミンネザンク | ポー | 同 |
| 8 ある作家の日記 | 同 | バルチヴァール | マーク・トウエン | 同 |
| 新潮現代文学 | | トリストランとイゾルデ | ゲーテ | 同 |
| 12 石川達三 | 新潮社 | カラー版世界の文豪選書 | フェルレーヌ | 同 |
| 23 大岡昇平 | 同 | マキアヴェリ | ホートレル | 同 |
| 28 井上靖 | 同 | バルサク | ヴォルテール | 同 |
| 32 三島由紀夫 | 同 | モンテニユ | 世界の文学 | |
| 33 安部公房 | 同 | デュマ | 30 ジョサ | 実英社 |
| 35 松本清張 | 同 | サンニテクジュベリ | 35 パース・1 | 同 |
| 41 遠藤周作 | 同 | ブルース | 37 現代詩集 | 同 |
| 44 新田次郎 | 同 | トルストイ | 瓦厚世界文学大系 | |
| 49 北杜夫 | 同 | ランホー | 58 ブルースト | 筑摩書房 |
| 51 有吉佐和子 | 同 | ヴァレリー | 分銅傑作集 | |
| 55 大江健三郎 | 同 | ジッド | 近代詩物語 | 有斐閣新社 |
| 56 城山三郎 | 同 | タンテ | 現代詩物語 | 同 |
| 72 五木寛之 | 同 | シュクスピア | 尾形 俊 芭蕉蘇村 | 花神社 |
| 78 間井康隆 | 同 | ティツケン | 武田勝彦編 | |
| | | イブセン | 森鷗外 歴史と文学 | |
| 露伴全集 15~20 | 富渡書店 | バイロン | 上上ノ果 | 明治書院 |
| ヴィリエト・リラタン全集 1~5 | | モリエール | 百人一首百科全書 上・下 | ビタカ |
| レーモンラティゲ全集 | 東京南元社 | スタンタール | | |
| | 同 | セルバンテス | | |

読んでみませんか— 近ごろ収めた本から

○言葉の海へ 高田宏 新潮社

近代日本の各国語辞典「言海」の著者、大槻文彦（元仙台藩士）の不撓で偉大な生涯を綿密な調査でめぐりに再構成した。大仏次郎賞、亀井勝一郎賞

○万葉の人々 犬養孝 PHP研究所

激動期に力強く生きた歌人の作品と心。ゆりかご時代の日本へさかのぼり、大らかな古代人の魂を描く。

○西域をゆく 井上靖・司馬遼太郎 潮出版社

今の新編ウイグル自治区。唐の都長安の詩壇で注が

れた強いあこがれを、今、両作家が果たす。

○学校新聞の作り方 大木・木内 明治書院

取材、編集から印刷、配布までの実際的なアドバイス。クラス雑誌やHRニュースを試みる諸君へぜひ。

○碧葉・日本ベニシリン物語 角田房子 新潮社

太平洋戦争末期、潜水艦でひそかに運ばれたドイツ論文から貴重薬の合成に成功した科学者達の労苦。

今年度の当館の顔振れ紹介

| | |
|------|-----------------|
| 館長 | 池田 豊 (一般教科) |
| 副館長 | 小磯 武文 (工業化学科) |
| 図書委員 | 坂本 智 (一般教科) |
| 〃 | 淡路 英夫 (機械工学科) |
| 〃 | 鴨沢 勲郎 (電気工学科) |
| 〃 | 根岸 嘉和 (土木工学科) |
| 〃 | 渡辺 毅 (事務部長) |
| 〃 | 日下 俊一 (庶務課長) |
| 〃 | 加藤 勇 (図書係長) |
| 職員 | 大谷 敦子 (図書係〔整理〕) |
| 〃 | 大久保フミ (〃〔閲覧〕) |
| 〃 | 山野辺恵子 (〃〔受入〕) |

学生図書委員

| 年 | M | E | C | D |
|---|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 1 | 鈴木 健吾 | 会田 清文 | 馬籠 宏之 | 我妻 康弘 |
| 2 | 菊池 和則 | 菊池 稔 | 櫛田 芳昭 | 山下 英男 |
| 3 | 志比奈 忠 | 佐々木 充 飯垣 幸生 | 内田 修司 | 嶋原 一夫 |
| 4 | ○渡部 章一 | 大島 俊春 | 馬上 功 | ○小松山 実 |
| 5 | 鈴木 基之 鈴木 一生 | 若松 立也 | 見留 隆男 松永 長平 | 草野 真一 草野 真一 |

◎委員長, ○副委員長